

# 第6章

## 第64回

### 日米学生会議概要

## 第64回日米学生会議概要

衝突と理解から生まれる新たな意志 ～未来を構築する力へ～

- Share in the Present, Connect for the Future:  
Strengthen Ties to Inspire Change -

2012年は、アメリカを始め、世界各国で選挙や政権交代が行われ、国際政治の転機を迎えよう。国際社会における各国間の結び付きがますます強固になる中、この政治的変化は世界に大きな影響を及ぼすはずだ。中国を始めとする新興国の台頭により、国際関係も変動しつつある今、私たちは、日本の立場のみならず、安全保障や経済の面で非常に強い相互依存関係を持つ「日米」の関係について再考する必要がある。

また、2011年3月11日に発生した未曾有の大震災とそれによる原発事故は世界に大きなショックを与えた。震災から1年を迎え、より具体的な復興政策や各国からの協力が引き続き必要となる。日本は、災害大国そして原発事故発生国として、改めて災害対策を打ち出すとともに、原発を巡るエネルギー政策を見直し、世界に発信していく責任がある。私たちも学生として、長期を要する震災復興に今後どのように関わり、貢献することができるかを考えねばならない。

このような中開催される第64回日米学生会議では、日米両国から問題意識の高い学生が集まり、激動する世界においていかに日米が連携し、世界的財政危機や環境問題など両国を取り巻く国際問題に対処していくべきか、1ヵ月をかけて議論し、考える。特定の利害に縛られない学生だからこそ、自由な意見を発信し合うことができる。多様なバックグラウンドを持つ日米学生の率直な意見は、時に「衝突」を生むだろう。しかし、互いを尊重し合いながら、意見や価値観を「理解」するよう努めていく中で、自身の新たな視点や課題を見出し、未来へ向けた「意志」を育むことを目指す。参加者一人ひとりが、学生としての目標や

課題、同時に国際社会の一員として将来担っていくべき役割を模索し、共に未来を構築するために行動を起こすきっかけになることを期待する。

### 【主催】

財団法人国際教育振興会

### 【企画・運営】

第64回日米学生会議実行委員会

### 【後援】

外務省、文部科学省、米国大使館、  
日米文化センター、社団法人日米協会（予定）

### 【賛助】

公益財団法人三菱UFJ国際財団、財団法人双日  
国際交流財団、財団法人平和中島財団 他（予定）

### 【開催期間】

2012年7月28日～2012年8月20日

### 【開催地】

- 第1開催地 ダラス（テキサス州）
- 第2開催地 マディソン（ウィスコンシン州）
- 第3開催地 バークレー / サンフランシスコ  
（カリフォルニア州）
- 第4開催地 シアトル（ワシントン州）

## 会議の過程

第63回日米学生会議の参加者から選出され、発足した実行委員会が、日本側主催団体の財団法人国際教育振興会、米国側の International Student Conference(ISC), Inc. の支援の下、本会議開催のための準備活動を行う。4月に参加者決定後、各参加者は所属分科会のテーマに関するレポートを作成し、5~7月の期間には、自主的に講演会や勉強会、合宿などの事前準備を行い、夏の本会議に臨む。

本会議では、日米各36名、合計72名の学生が約1カ月に亘って共同生活を送る。本会議の主な活動として、討論が中心となる分科会、各種のフィールドトリップ、自ら提案した議題について議論するスペシャルトピック、様々な文化体験、そして最後に開催されるフォーラムなどが挙げられる。参加者は7つの分科会に分かれ、第64回日米学生会議として学生だからこそ可能である「心の対話」を行い、国境を越えた相互理解を推進する。また、フィールドトリップでは、議論に必要な具体的事例を学ぶのみならず、各地の文化に触れる活動を行うなど、各自の視野を広げ、討論と対話の充実を図る。さらに、学生同士の討論に止まらず、ホームステイやフォーラムなど積極的に地域の方々との交流を図っていく。ファイナルフォーラムでは、分科会での討論の概容など本会議の成果を社会に向けて発信する。本会議終了後には、参加者は会議において得られたもの、そして1カ月の成果を、報告書また報告会という形で外部へ発信する。会議で得られた成果が長期的に社会還元されることを期待している。

## 本会議におけるプログラム

### 《分科会》

本会議において活動の中心となる分科会は7つ設けられており、日米双方5名ずつの学生(実行委員1名を含む)が、本会議期間中を通じて議論を重ねることとなる。事前活動に加え、本会議中もフィールドトリップで関連機関や専門家を訪問するなど、議論の質の向上を目指す努力が続けられる。第64回会議における分科会は以下の通りである。

- (1) Business and Ethics in the Modern World  
現代社会における企業活動と倫理
- (2) Environment and Technology  
環境と科学技術
- (3) Personal and National Identity  
パーソナル/ナショナルアイデンティティ
- (4) Post-Crisis Reconstruction  
復興と社会の再構築
- (5) Human Rights and Responsibility  
人権問題と我々の責務
- (6) Cooperative Security in the 21st Century  
安全保障と日米
- (7) Cultural Innovation and the Arts  
グローバル化における文化芸術

### 《Field Trip》

分科会の議題や各開催地に対する理解を深めることを目的に、政府機関、国際機関、企業、大学、NGO、NPO及び研究所などへ訪問研修を実施する。事前活動におけるものと同様に、社会と直接関わることができる貴重な機会であり、現場や現状を知り、議論に必要な具体的視点を獲得するための重要な活動となる。

《 Special Topics 》

同年代の学生である参加者が、個々の関心に沿った議題を自由に設定し、多角的な議論を行うことを目的としている。また参加者の主体的、自発的な参加により、問題発見及び議題設定能力を養うと同時に、より広い参加者同士の交流を促し、新たな視点や発想を得ることで、会議をより充実させることも求められる。

《 Conference Wide Discussion 》

分科会では扱わないテーマを対象とし、日米学生会議アラムナイや専門家の方々をゲストスピーカーとして招き、第64回日米学生会議テーマ、各開催地のサイトテーマに基づいたディスカッションを行う。これにより、参加者の見識を広め、新たな課題や視点を発見することを目的としている。

《 Conference Wide Reflection 》

参加者が一同に集い、1カ月の共同生活や、会議中に感じるであろう、議論の違いから生まれる悩みなどを自由に話し合う。参加者自身が心を開き、自ら思うことを率直に語り合うことによって、それぞれの中に「共鳴」が生まれ、相互理解のための手助けとなることを期待している。また、他者を理解する場を通して、より充実した会議に向けての姿勢が参加者の中に生まれることを目的としている。

《 Forum 》

第64回の各開催地で、Site Themeに関連する問題や日米両国に深く関わるトピックについて、一般公開のフォーラムを開催し、第一線で活躍する専門家や有識者の講演、学生を交えたパネルディスカッションなどを行う。これにより、参加者が各開催地で学んだ知識を深め、新たな問題意識や興味を持つ機会になることを期待する。

《 Final Forum 》

最終開催地において行われるファイナルフォーラムでは、1カ月の総まとめを行う。主として分科会における議論の概容や成果を発表し、現代社会が抱える問題とそれに対する学生なりの視点を来場者の方々と共有することによって、第64回日米学生会議において得られた、学生達の成果や発見を社会に発信する。